

平成10年度林産試験場誌上研究成果発表会

特集にあたって

平成11年4月15日（木）に、林産試験場を会場にして、平成10年度林産試験場研究成果発表会を開催しました。この研究発表会の目的は、木材の有効利用、需要拡大をねらって、林産試験場が進めている研究についての最新の成果を紹介するとともに、その成果を普及することにあります。

当日の発表会は、口頭、実演および展示の三つの発表で構成され、それぞれ講堂、試験棟およびロビーで各発表を行いました（写真1～3）。出席者は、官公庁から100名、民間企業・団体・一般から37名、報道関係から13名の合計150名でした。

本誌では、口頭発表を行った5件の研究成果について、「誌上」発表いたします。これは、研究科を擁する各部から、それぞれ1件の成果を選んだものです。具体的には、性能部から「枠組壁工法用I形梁の開発」、利用部から「道南地方のスギ精英樹クローンの材質」、技術部から「道産低質広葉樹材からの合板・LVL製造」、きのこ部から「ブナシメジ新品種の栽培特性」、および企画指導部から「製材工場の作業工程から無理、無駄を省く」です。

すでに本誌4月号で紹介しましたが、林産試験場では本年4月1日付けをもって機構改革とそれに伴う人事異動が行われました。その影響で、所属部署が変更になった原稿執筆者がいることを申し添えます。

（林産試験場 普及課）



写真1 口頭発表風景



写真2 実演発表風景



写真3 展示発表風景